

## 説教「神の御子、布にくるまれ飼ひ葉桶」

ルカ 二・一〜七

牧師 森田恭一郎

クリスマスの晩。馬小屋の二人は天国のような静けさの中に包まれました。

ヨセフの婚約者マリアは、ヨセフと一緒にいる前に、ガリラヤのナザレの町で天使のお告げを聞きました。「あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身もつて男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。生れる子は聖なる者、神の子と呼ばれる」(ルカ一・二六)。

他方ヨセフも、夢で天使からお告げを受けていました。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によつて宿ったのである。マリアは男の子を生む。その子をイエス(主は救い)と名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである」。そしてこの出来事をマタイ福音書は、こうしてインマヌエル(神は我々と共におられる)という預言者の言葉が実現すると告げています(マタイ一・二〇)。その時以来、ヨセフはマリアを守る度に、またマリアも大きくなるお腹をさする度に、天使のお告げを思い起こし、お家で出産の準備もしていました。

ところが突然、皇帝の命令で全住民は自分の町での住民登録のため旅立たねばならなくなりました。マリアとヨセフも遠く離れたベツレヘムの町まで出かれます。パツカポツコとマリアはロバに揺られ、ヨセフはロバの綱を引きなが

ら旅を続けます。そして「やつとベツレヘムの町が見えてきたよ」。

宿屋での出産になりそうです。ある宿屋の前で「ここがいい」と思いました。それなのに満室でした。他を捜してもどこも一杯で、宿屋には二人の泊まる場所はありません。こんなはずではなかった。にぎやかな宿屋を前にして、ヨセフとマリアは不安と寂しさで涙がどつと溢れます。やつと見つけたのは宿屋の代わりに馬小屋です。「こんな嫌だ」。でもそんなこと言つてはいられません、もう生まれそうです。馬小屋にあるのはベッドの代わりに藁を敷き詰めた飼ひ葉桶、用意できたのはふかふかのお布団の代わりに布だけです。そしてこの晩、赤ちゃんはオギャーオギャーと生れて来てくれました。神の子と言つても普通の男の子とまったく同じ。用意した布にくるんで飼ひ葉桶に寝かせます。

この時の様子を讚美歌はこう歌います。

きよしこの夜 星はひかり、

救いの御子は まぶねの中に

眠りたもう 安らかに。

この歌詞は由木康の名訳ですが、元のドイツ語はその言葉の響きが少し異なっているようです。

静かな夜！ 聖なる夜！

すべてのものは眠り、ただ寂しく眠らぬは

いとしき、まことに聖なる夫婦のみ

巻き毛の男の子を抱き

天国のような静けさの中に眠れ

天国のような静けさの中に眠れ。

この歌詞は、ヨセフとマリアの孤独に心を寄せています。ただ寂しく眠らない聖なる夫婦。誰も気付かない、誰も見向きもしない。マリアとヨセフの二人だけの所での赤ちゃんの誕生です。

この歌詞が心を寄せていること、もう一つあります。それは静けさです。にぎやかなベツレヘムの街や宿屋と対比された、馬小屋の静けさです。それだけではありません。この静けさは天国のような静けさ、とこの歌詞は天国を見上げています。

クリスマスの晩、天上の世界は人知れず主の栄光の輝きと天使の賛美に満ち溢れていました。天使が羊飼いたちに現れて、今日、ダビデの町であなた方のために救い主がお生まれになった。あなた方は布にくるまって飼ひ葉おけの中に寝ている乳飲み子を見つけるであろうと告げたのでした。そして天の大軍が加わり、賛美の歌声が大空いっぱい響き渡りました。

いと高き所には栄光、神に在れ

地には平和、御心に適う人に在れ

羊飼いたちはベツレヘムへと急ぎ「布にくるまった飼ひ葉桶に寝ている乳飲み子はいますか」と一件ずつ探し訪ねます。そして布にくるまって飼ひ葉桶に寝ている乳飲み子を見つけました。

マリアとヨセフは羊飼いたちが天使から見聞きしたこの知らせを聞いて、天上の出来事を知りました。本当にこの子が神の御子、天から降つて来られて誕生なさったのがこの乳飲み子だ、と納得しました。お誕生というより、降誕です。

馬小屋の静けさは当初、マリアとヨセフだけの孤独の静けさでありました。けれども、実は、天上の神様の栄光と天使たちの賛美の歌声の下に包まれた、そういう静けさでした。

羊飼いたちが帰って行って、そしていつしかスヤスヤと眠るイエスさま……。また静かな馬小屋になりました。布にくるまれ飼い葉おけに寝たままの馬小屋の様子は何も変わりません。ただ、この静けさだけは、神の御子、イエスさまの寝息が聞こえる静けさ、天上の賛美に耳を傾け、天上へと心を高く上げることの出来る、そういう静けさとなりました。

マリアは天使のみ告げを思い起こしていました。生れる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。ヨセフも同じように思い起こしました。この子は自分の民を罪から救う。天使のこれらのお言葉と、目の前にスヤスヤと眠る乳飲み子イエスさまのお姿と、この二つを重ね合わせながら、マリアとヨセフの心は満たされ慰められ励まされました。「私たちのこの所に、聖なる者、神の子、羊飼いたちが伝えてくれた救い主が来て下さったのだ」と神さまの共におられるインマヌエルの聖なる出来事に包まれたのです。「これで良かった……」。神様のご計画の中に導かれ守られていたのだ、と二人は思いました。そして、これからもイエスさまと一緒にい続けようと思えました。